

小矢戸集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

小矢戸集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3.7 ha (区域内の農地面積4.6 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

農地中間管理事業の活用も視野に入れ、農地集積に賛同してくれるよう、担い手農家と話し合いを行う。

鳥獣害対策は、住民一緒になって電気柵等の対応にあたる。

菖蒲池集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

菖蒲池集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.4 ha (区域内の農地面積5.3 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

地域区民と農産物との調和を図り生産性及び付加価値を高める農産物を作り販売していく。

また、遊休農地および調整水田等は作物生産に結び付ける様に区民一同協議しながら努める。

西市集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

西市集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 3ha（区域内の農地面積18ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

そばなどの作付作物を西市区の特産としていく。今後も2名の担い手を中心に集積する。

中村町集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

中村町集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2経営体
個人	4経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 9ha（区域内の農地面積27ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

#### 園芸導入・定着

特産指定の里芋・ネギの生産拡大を図るため、機械の共同購入・利用、農地提供農家に選別等の共同作業を担ってもらう仕組みづくりに取り組む。

#### 鳥獣害対策

いのしし対策等を集落ぐるみの共同作業として位置づけ、取り組む。

中西出集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

中西出集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.8ha（区域内の農地面積2.4ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

水稻を中心に特産のサトイモやネギなどの生産にも取り組む。

商品として出荷できないサトイモを利用した新たな商品開発を行いたい。

生産組織（機械利用組合）があるが、今後法人化なども含め検討していく必要がある。現段階では、中心農家への農地の集積を図り効率的な営農を促進し、農地を維持していく。

農地中間管理機構等を活用し、農地を担い手に集積・集約化していく。

イノシシ、シカ、ハクビシンが増えてきており、電気柵等の対策を講じていく。

大西出集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

大西出集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.6 ha (区域内の農地面積3.4 ha)

### 4. 今後の地域農業の在り方

これからの農業は、地域内だけでは対応できない状態になってきている。  
地域全体のことは、話し合いの末、皆で協力し合う。

木本領家集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

木本領家集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	4 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

4. 1ha（区域内の農地面積63ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

集落内では機械の共同組合が存在し、約30戸の農家が参加している。利用組合では青壮年会のメンバーを中心に、オペレーターの育成を図っており今後も継続的に研修会を行いたい。また、個別に農機具を保有している農家についても、利用組合への参加を呼びかけ集落として有効的な農作業を目指す。

個人ごとに点在する農地を中心となる農家への集積を図りながら、水稻の作付地や転作地を面的に区画し、能率的な農地の利用方法を検討し実施を目指す。

中山間地等直接支払交付金を活用し鳥獣害（特にイノシシ）の対策を行っている。主に電気柵を設置して対応しており、十分な効果が得られている。しかし、中山間部の田畑に侵入できないために平地の田畑への被害が拡大している。電気柵の設置を中心に、捕獲用檻の設置などいくつかの対策を併用し被害の防止に努めたい。

医王寺集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

医王寺集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

2. 5ha（区域内の農地面積37ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

現在は遊休農地はないが、出たときは経営体と協議して地域農業を維持管理する。



西据集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

西据集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2経営体
個人	2経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 0ha（区域内の農地面積15ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

高齢化等に伴う離農者に対して、農中間管理事業の活用を検討し、担い手への農地集積・集約を図る。

友兼集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

友兼集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.0ha（区域内の農地面積50ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

1法人、1個人を地域の中心となる農家として、農地の集積を図っていく。  
有機農業に取り組み、農産物の高付加価値化を図っていく。里芋を中心として、園芸作物の定着を図っていく。

佐開集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

佐開集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人	1 経営体
集落営農（任意組織）	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 4ha（区域内の農地面積39ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

鳥獣害の有効対策を検討する。

遊休農地の対策を検討する。

TPP等、最近の農業情勢を考えれば、今後は小規模の農業では経営が成り立たなくなり、また国等の援助も受けられなくなるので、当面は生産組合を中心とした集落営農を続け、近い将来、法人化に向け検討する必要がある。

土打集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

土打集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	2 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.0ha（区域内の農地面積6.2ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

低コスト化と面的農地集積を図る。

若手農業者、農地の出し手による園芸定着・高付加価値化を図る。

新塚原集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

新塚原集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	3 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.8ha（区域内の農地面積1.3ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

これまで、小規模・家族経営農家が地域の多面的機能の発揮の役割を果たしてきたが、農産物価格（特に、米価）の低下と、農機具や肥料の高価格化があつて、兼業農家等の農家経営が立ち行かなくなってきた。今後は、消費者ニーズに対応した安全・安心をモットーにした米や野菜づくり、農業経営の安定を図るためのコスト低減と農地の集約を図りながら、将来の農業生産の担い手が大規模農家と家族経営農家とに混在することで、相互に連携しつつ農地の保全管理にあたることとし、生活の場としての農村社会が人々の生活に潤いを与えるように地域環境の整備と付加価値の高い土地利用を目指していきたい。

井ノ口集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

井ノ口集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人 2経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 3ha（区域内の農地面積48ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

集落内において営農組織を立ち上げていくことが必要であるが、中心となるような若手の後継者が育っていない。ただ、個人個人で特産野菜を作っている者が3、4人おり、これらの者が中心となって営農組織を立ち上げることも考えられるが、これらの者が高齢なことや、集落全体でまとまって何かしていこうという空気はまだない。しかし、全体的には、いつまでも集落外の者に任せておくことが良いことではないと思っており、後継者対策とあわせて集落組織立ち上げに真剣に検討していきたい。

七板集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

七板集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	5 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

4. 4ha（区域内の農地面積80ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

水稲以外に特産のサトイモなどの生産も取り組んでいく。

農地の9割近くを集落内の農家で耕作し、残りは他集落の担い手にお願いしている。集落営農組織の立ち上げも検討し、中心となる農家へ農地を集積し担い手の効率的な営農に配慮していく。

イノシシやカラス、ハクビシンの被害が多く、対策を講じていく。

上唯野集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

上唯野集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人 3経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 5ha（区域内の農地面積40ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

地域の中心となる農家に3法人を位置づけし、集落内の個人農家で営農を続けられなくなった場合の受け皿となり、地域の農業を担っていく。



中休集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

中休集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	4 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3. 9ha（区域内の農地面積4.7ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

低コスト化と面的農地集積を図る。

蕨生西集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

蕨生西集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.9ha（区域内の農地面積2.4ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

当地区は、農業地環境として中山間地の水田が多くあり、蕎麦・麦の集団転作がしにくい環境にあります。

米の味については良いとの声を多く聞くことより、おいしい米作りとして組合員が協力しあい、米のブランド化を目指していく。

新田原集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

新田原集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

個人

1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

3.0ha（区域内の農地面積19ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

水稻以外に特産のサトイモなどの作付けも行っていく。しかし、高齢化が進み作付面積も減ってきている。

集落の農地面積が少ないため、単独での集落営農組織の立ち上げは難しいが、中心となる農家へ農地を集積し集団化することで、担い手が効率的に営農できるようにする。

イノシシの被害があり、電気柵などの対策をする必要がある。

当面は認定農業者に集積し、効率的に営農できるようにするが、将来的には近くの農業法人等をお願いするようになると思う。

田野集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

田野集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人

2経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0ha（区域内の農地面積80ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

今後も福井県特別栽培農産物を生産し、特徴ある農産物の販売を促進していく。

中心経営体である1法人に対し農地集積を図り、農業経営の効率化を目指す。

ネギ栽培にも力を入れる。

土布子集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

土布子集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	2経営体
個人	2経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 7ha（区域内の農地面積35ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

中心経営体に集積していく。

真名川、九頭竜川両方に挟まれ獣の害有。今後も電気柵等を適正に管理し被害を防ぐ。

富塚集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

富塚集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	1 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

0.6ha（区域内の農地面積3.5ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

米以外に、里芋、とうもろこし、などの作付を行う。  
中心農家へ、農地の集積を図り、効率化を目指す。  
ネギ栽培に力を入れる。

伏石集落において、人と農地の問題解決のための会合が行われ、その結果に基づき人・農地プランを決定したので、下記のとおり公表する。

平成31年2月20日

大野市長 石山志保

## 記

### 1. 会合の対象とした区域

伏石集落

### 2. 会合の結果を取りまとめた年月日

平成31年2月13日

### 3. 今後の地域の中心となる経営体の状況

#### ○ 経営体数

法人	1 経営体
個人	3 経営体

#### ○ 新たな農地の集積面積

1. 4ha（区域内の農地面積24ha）

### 4. 今後の地域農業の在り方

区民は、地域の中心となる経営体に協力する。  
耕作放棄地を出さないようにする。